

ほ ほ え み

〒376-0024 群馬県桐生市織姫町6番3号
 TEL 0277-44-7171(代) FAX 0277-44-7170
 地域医療連携室 内線 820 専用 FAX 20-8174
 URL <http://www.kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/>

桐生厚生総合病院

(編集 院外広報編集委員会)

栄養サポートチーム (NST) について

NST委員会(内科医長) 森村 匡^{ただ} 志^し

栄養管理は、あらゆる疾患の患者さんに共通した最も基本的な医療の一つです。たとえば、薬が処方される時、体のサイズに合わせて投与量を決定します。しかし、食事はどうでしょう。男性でも女性でも20歳でも80歳でも何も気にしなければ同じ食事が出ます。体の大きさが違えば必要なエネルギーなどの量も変わるはずですが、栄養が^{かたよ}偏ったり不足したりする場合には治療効果も異なってきますし、感染症や合併症の増加が知られています。

一方で、わが国では栄養管理の重要性が認識されるようになってから歴史が浅いために、医療における栄養に関する教育が必ずしも十分とは言えません。医学部の講義でも栄養に関するものはなかったのです。そのため、術後、栄養がもっとも必要な時期に板チョコ1枚分の点滴のみで栄養を管理するということが経験的に行われていたのです。



栄養管理を個々の患者さんや各疾患の治療に応じて適切に実施することを栄養サポート (Nutrition Support) といいます。この栄養サポートを職種の壁を超えて実践する集団 (チーム) がNST (Nutrition Support Team; 栄養サポートチーム) です。

NSTの役割は、栄養管理に関して医師・看護師・栄養士・臨床検査技師・薬剤師・理学療法士・事務部門などがそれぞれの専門知識を持ち寄り、栄養評価を行い、回診し、検討を行った上で主治医への報告・アドバイスをすること、栄養管理に関する新しい知識の紹介や啓発を行うことです。

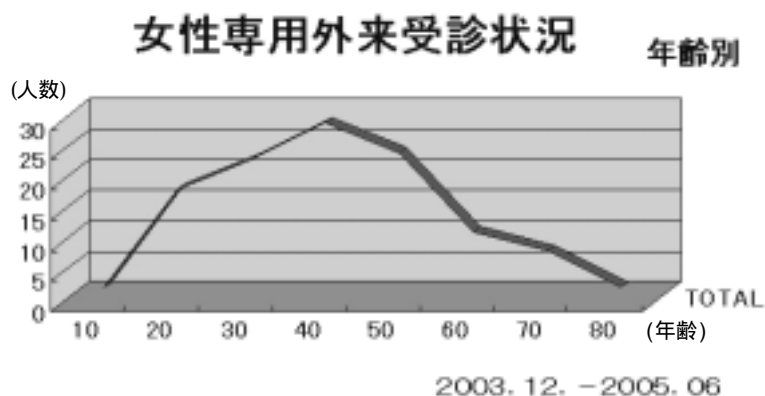
当院でも平成6年から延べ8,000人に対して行われてきた栄養士による栄養支援を発展させる形として、昨年の6月から勉強会、回診などを通して準備を始め、今年4月からNST委員会を設立し、稼動



しております。全職員が栄養管理という治療の土台を理解し実践し、患者さんの治療に貢献できるよう努力しております。NST導入により、患者さんにより質の高い医療を提供することができ、早く元気になっていただき、そしてきちんと食べられる状態で退院していただけるようになることが、一番の効果と考えております。

女性専用外来のご案内 - 受診状況 -

女性専用外来担当（中央検査部長） 吉田 カツ江



当院に女性専用外来が開設されて約1年9ヶ月が経過しました。そこで受診状況をご報告し、再びご案内申し上げます。本外来は現在完全予約制・自費診療（5,250円）のもと毎週月曜の午後に行っております。現在まで、延べ119名の患者さんが受診しました。その年齢層は10歳代から80歳代まで幅広く、40・50歳代の患者さんが全体の44.5%でした。女性専用外来受診の動機は、以下の如く様々です。

1. どの科を受診してよいかわからない。
2. 相談相手がないので、とりあえず駆込み的に受診。
3. 思春期から更年期・老年期の産婦人科症状を有する。
4. 病気のセカンドオピニオンを聞きたい。
5. 様々な精神症状を有する。
6. 予約時、恥ずかしくて症状を言えない程悩んでいる。
7. 虐待
8. 紹介患者

女性専用外来では、一人の患者さんに約一時間かけて、カウンセリングを含め、診察を行っております。特に婦人科疾患が想定される場合は「更年期外来」の岡村寿子先生に紹介し診察・治療をお願いしております。約40%の患者さんを更年期外来に紹介しています。

カウンセリングのみの患者さんは約35%です。その他の専門外来への紹介も、随時行っております。特に皮膚科、耳鼻科、泌尿器科、内科、歯科などです。

女性専用外来をはじめ、実に様々な訴えを持った患者さんが来院し、診察をしておりますが、この外来は女性の総合外来的要素と振り分け外来的要素を兼ね備えております。

女性の生涯を通じての健康づくりをサポートし、生き生きとした心豊かな人生を送っていただけますよう医療の面からお手伝いさせていただきます。さらに充実した女性専用外来にしたいと思います。

お気軽に女性専用外来をご利用くださいませ。なお予約は電話 0277-44-7171 医事課で受け付けております。



緊急時の携帯電話の使用について

サービス向上委員会委員長（副院長） 竹内 東 光 はる みつ

患者さんの携帯電話使用については、サービス向上委員会内に検討委員会を設け討議を重ねてきました。全国的にも院内携帯電話使用可能の病院も出始めました。検討の結果、医療器械への影響を再調査し、心臓ペースメーカー装着患者さんと一般患者さん（100人）からアンケートをとりました。その結果、医療機器には（25cm程度離せば）強い影響はほとんどなく、患者さんの意見としても場所を限ってマナーを守って使えば利便性のほうが高い、という結論に至りました。

そこで、2005年9月1日から、**緊急時**には、病院正面玄関付近、外来救急治療室横の公衆電話付近、2階健診室待合コーナー、病棟面会コーナー、病棟デイルーム、人間ドックにおいて、携帯電話が使用できるようになりました。可能場所については今後も検討していきます。なお病院の中でもあり、安静を保ちたい患者さんも同時にいらっしゃることを踏まえ、**緊急時**にお使いくださるようお願いいたします。

高気圧酸素治療について

麻酔科診療部長 佐藤 淳 じゅん

高気圧酸素治療とは、気圧を私たちが吸っている大気の2倍に上げ約1時間半、100%の酸素をマスクから吸入する治療です。装置は全長2.5m、内径70cmの透明な筒状のカプセルで、この中で横になり通常は不可能な200%の酸素を吸入するという画期的な方法です。

当院の高気圧酸素治療は、平成2年3月より稼動し、現在までに患者数（1,008名）、治療回数は（11,100回）を数えています。治療の対象となる診療科はほぼ全科にわたっています。なかでも多いのは意外にも突発性難聴という耳鼻科の疾患で、劇的な効果のある患者さんがいます。また、糖尿病、動脈硬化などから発症する慢性血行障害や難治性潰瘍かいようや一酸化炭素中毒など、多くの疾患があります。大気圧力下での空気呼吸に比べ10数倍もの大量の酸素が供給されるため組織の酸素欠乏の改善に効果は大です。



〔高気圧酸素治療装置 セクリスト〕

一般に高気圧酸素治療は純酸素で加圧しますが、爆発の危険があるため、当院の装置は全国でも数少ない「空気加圧」という方式になっています。院内で医療用液化酸素と液化窒素から人工的に造られた空気によって行うため、安全性が高く安心して治療を受けられます。平成10年12月には新しく装置も入れ替え、定期的な安全管理も行っています。これまであまり知られていない分野ですが、患者さんに信頼され地域にも貢献できる高気圧酸素治療を目指し、より充実させていきたいと考えています。

外来担当医表はホームページ内で公開していますので省略いたしました。

基本理念

向学心と優しさに満ちた医療

基本方針

1. 私たちは、患者さんの人権を守り、患者さん中心の安全で優しさに満ちた医療を行うよう努めます。
2. 私たちは、日々研鑽し、患者さんに良質で高度の医療技術と医療サービスを提供するよう努めます。
3. 私たちは、地域中核病院として、他の医療機関との連携を推進し、地域医療のニーズに応えるよう努めます。
4. 私たちは、地域に密着した医療を提供し、地域住民の厚い信頼を得るよう努めます。